



メリケントキンソウの株と果実。果実のトゲは服や靴底などに刺さりやすい

外来植物 メリケントキンソウ

チクツッ！トゲに注意

メリケントキンソウ 南米原産のキク科の一年草。高さ4～5センチほどで、地面をはうように生える。放射状に伸びた細長い葉が特徴だが、他の草との見分けは難しい。3～4月ごろ、株の中心に緑色の花が咲き、その後、トゲのある実をつける。1930年代に和歌山県で採集された記録がある。愛知県では2009年に豊橋市で初めて確認された。

実に長さ1～2センチの鋭いトゲがあり、繁殖力が強い外来植物「メリケントキンソウ」が、愛知県内の公園などで分布を広げている。芝生や他の雑草に紛れて生えていることが多く、気付かずに触ったり、上に座ったりすると思わぬけがをすることも。実は七月にかけてでき、靴底などに刺さって意図せず繁殖を広げる恐れもある。県の担当者は「見つけた場合は速やかに公園管理者に連絡を」と呼び掛けている。(安藤孝憲)

五月末、名古屋市熱田区。皮膚に刺さっても手での公園。さまざまな雑草が、例えば簡単に取れるが、素生えている中で、背の低い手やはだして外遊びする子一本の草に手のひらを当てどもにとっては危険な存在で、軽く体重をかけると、鋭い痛みが走った。思わず引いた手には、ゴマ粒大の小さな実が六つ刺さっていた。これがメリケントキンソウだ。

トゲは短く、毒などはないが、飼犬が激しく痛がって芝生を嫌がるようになったという話は聞いたと話す。

五月末に県が名古屋市と

強い繁殖力 愛知で広がる



メリケントキンソウを指さす愛知県職員。他の雑草に紛れてしまい、見つけにくい。名古屋熱田区で

その近郊で調査したところ、庄内緑地公園(西区)や熱田神宮公園(熱田区)、落合公園(春日井市)などで相次いで見つかった。知多市の海浜公園「新舞子マリパーク」では、二年前、海水浴場の足洗い場近くの芝生に生えているのが見つかり管理者が注意を呼び掛ける看板を設置。過去には豊川、田原、稲沢の各市でも繁殖の報告があり、既に全県に広がっているとみられる。

静岡県や兵庫県、九州の各地などでも繁殖が確認され、熊本県玉名市では小学校の校庭に侵入したため、土を入れ替えた例もある。岐阜、三重両県での分布は不明だが、植物が専門で、除を推奨している。

県によると、高密度に生えた芝生には侵入しにくく、適切な芝生の管理も拡大防止には有効だ。トゲのない秋から春にかけての駆除を推奨している。

愛知県の調査に協力する愛知教育大の芹沢俊介名誉教授は「繁殖状況は十分に把握されておらず、近県も含めて、広がっている可能性はある」と指摘する。

法律で防除対象とされる特定外来種には指定されていないが、分布の広がりを受け、愛知県は四月、特徴や注意事項をまとめたチラシを作成。ホームページにも掲載し、公園を管理する自治体などにも早期対応を求めている。